

獣医師生涯研修事業のページ

このページは、Q & A形式による学習コーナーで、小動物編、産業動物編、公衆衛生編のうち1編を毎月掲載しています。なお、本ページの企画に関するご意見やご希望等がありましたら、本会「獣医師生涯研修事業運営委員会」事務局（TEL：03-3475-1601）までご連絡ください。

Q & A 公衆衛生編

患者は関東地方のとある県に在住で、11月に野外作業を行った1週間後に39度以上の発熱が現れ、その2日目頃から体幹部を中心とした全身に2～5mm大の紅斑・丘疹状の発疹が出現した。患者の足には虫に刺されたような痕があった。

質問1：疑われる疾病はどれですか？

- a. 日本紅斑熱
- b. ツツガムシ病
- c. バベシア症
- d. オウム病
- e. 野兔病

質問2：この疾病を媒介する節足動物は次のうちどれですか？

- a. ノミ
- b. シラミ
- c. マダニ
- d. ツツガムシ
- e. 蚊

質問3：この疾病の病原体は次のうちどれですか？

- a. ウイルス
- b. 細菌
- c. リケッチア
- d. クラミジア
- e. 原虫

質問4：この病気に対する第一選択治療薬は次の抗生物質のうちどれですか？

- a. アミノグリコシド系
- b. マクロライド系
- c. ペニシリン系
- d. テトラサイクリン系
- e. セフェム系

（解答と解説は本誌853頁参照）

獣医師の皆様へ

獣医師法第22条の届出を忘れずに！

- ◎ 平成24年度は、獣医師法第22条の届出を行わなければなりません。
- ◎ 平成24年12月31日現在の状況を、平成25年1月1日から1月31日までに、お住まいの都道府県に届け出てください。
- ◎ 今年度から、届出様式が変更になりました。詳細は農林水産省のホームページ（<http://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/zyui/22.html>）に掲載されています。

★届出様式の入手については、ご所属の地方獣医師会にお問い合わせください。

解 答 と 解 説

質問1に対する解答と解説：

正解：b

疑われる疾病はツツガムシ病である。病原体はリケッチアの *Orientia tsutsugamushi* で、大きさはおよそ $0.5 \times 2.5 \mu\text{m}$ 、他のリケッチアと同様に、細胞外では増殖できない偏性細胞内寄生性の病原体である。

質問2に対する解答と解説：

正解：d

わが国でツツガムシリケッチアを媒介するのは、アカツツガムシ (*Leptotrombidium akamushi*)、タテツツガムシ (*L. scutellare*)、及びフトゲツツガムシ (*L. pallidum*) の3種で、現在わが国で発生しているほとんどは、タテツツガムシとフトゲツツガムシが媒介する新型ツツガムシ病である。

質問3に対する解答と解説：

正解：c

ツツガムシリケッチアはツツガムシ体内では経卵感染により受け継がれる。孵化したツツガムシの幼虫は、そのライフサイクルを完結させるため、その生涯で一度動物の体液を必要とする。新型ツツガムシ病を媒介するタテツツガムシ及びフトゲツツガムシは秋～初冬に孵化するので、この時期に関東地方

から九州地方を中心に多くの発生がみられる。また、フトゲツツガムシは寒冷な気候に抵抗性なので、その一部が越冬し、融雪とともに活動を再開するため、東北・北陸地方では春から初夏にかけても発生がみられる。したがって、全国的にみると、5月を中心とした小さな発生ピークと、11月を中心とした大きな発生ピークを特徴とする。

質問4に対する解答と解説：

正解：d

治療には、早期に本症を疑い、適切な抗菌薬、すなわち第一選択薬としてテトラサイクリン系の抗菌薬を投与することが極めて重要である。テトラサイクリン系薬剤が使用できない場合はクロラムフェニコールを用いる。ペニシリン系抗菌薬は無効である。

本症の予防に利用可能なワクチンはなく、ダニの吸着を防ぐことが最も重要である。具体的には、ツツガムシ病の発生時期には汚染地域に立ち入らないこと、立ち入る際にはツツガムシの吸着を防ぐような服装をすること、作業後には入浴し吸着した虫を良く洗い流すことなどで対応する。

なお、本症は感染症法に基づく全数届出の4類感染症となっている。

キーワード：ツツガムシ病、テトラサイクリン系薬剤、発熱、発疹、リケッチア

※次号は、小動物編の予定です

平成24年度 日本獣医師会 獣医学術学会年次大会(大阪市)

平成25年 2月9日(土) ~ 11日(月・祝)
大阪国際交流センター、シェラトン都ホテル大阪

主催：公益社団法人 日本獣医師会 共催：公益社団法人 大阪市獣医師会
協力：近畿地区連合獣医師会 企画協力：公益社団法人 日本獣医学会
後援(予定)：農林水産省、環境省、厚生労働省、文部科学省、日本学術会議、大阪府、大阪市